



2025年1月14日

各位

会社名 テクミラホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 池田昌史  
(コード番号：3627 東証スタンダード)  
問合せ先 経営管理本部長 藤代 哲  
(TEL. 03-6838-8800)

## 2025年2月期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2024年4月12日に公表いたしました2025年2月期(2024年3月1日～2025年2月28日)連結業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 業績予想の修正について

2025年2月期連結業績予想の修正(2024年3月1日～2025年2月28日)

	売上高	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 10,000	百万円 300	百万円 200	円 銭 16.99
今回修正予想(B)	11,000	200	△70	△5.91
増減額(B-A)	1,000	△100	△270	
増減率(%)	10.0%	△33.3%	—	
(参考)前期連結実績 2024年2月期	8,736	132	73	6.28

#### 2. 業績予想修正の理由

連結売上高については、各セグメントとも順調に推移し、前回予想比で10.0%増となる見込みとなりました。IoT&デバイス事業のODM事業が予想を大きく上回り全体を牽引する見込みであるほか、昨年5月に発売した新作ゲームソフトのアジア版が各国で好評を博し販売が拡大していること、AIサービスやDXソリューションなどの付加価値分野が好調であることなどによるものです。これは、2023年10月に発表し、現在推し進めている中期経営計画の「ゲームソフト、ソフトウェア開発、IoTデバイスにおいて利益を確保し、それを成長ポテンシャルのある自社プロダクト&サービス事業へ先行投資し成長させていく」という事業方針を実現しているものであり、売上高については、現行主力事業、先行投資事業とも前年度から大幅な伸長となる見込みです。この結果、当期より重要な経営指標として設定した調整後EBITDA(営業利益と減価償却費(のれんに係る償却費含む)及び為替差損益の合計額)についても、当第3四半期連結累計期間において前年同期の15倍超の約799百万円に達するなどの成果を上げております。

一方で利益面では、先行投資型の自社プロダクト&サービス事業の利益が、今下期には全体として黒字に転

ずる見込みではあるものの、計画していた上期の赤字分を補うところまでは届かず、現行主力事業の好調による利益増ではカバー出来なかった結果、連結経常利益につきましては、前回予想から 100 百万円減の 200 百万円となる見込みです。

また、親会社株主に帰属する当期純利益は、のれん償却は税務上損金としないことから税金支払い等の見込みが経常利益の半分以上となる 1.2 億円程度と見込まれること、資本業務提携に伴って保有した上場株式の価格が下落し有価証券評価損が発生したことなどの要因により 1.5 億円程度の特別損失を見込むことから、前回予想の 200 百万円から 270 百万円下回り、70 百万円の損失となる見込みです。

### 3. 2025 年 2 月期の配当予想について

当社では、企業体質の強化と新たな事業展開に備えるために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を実施していくことを基本方針としており、株主に対して効果的に経済的価値を還元すること、その経済的価値を生み出す源泉となる企業の競争力を備えることが経営における重要事項と認識しています。

当期においては、上記のとおり中期的な当社グループの成長を目指すための戦略・施策は、概ね予定通り推移しており、調整後 EBITDA は大きく拡大する見込みであること、親会社株主に帰属する当期純利益が赤字となる主因は本業の問題ではなく評価損であり、フリーキャッシュフローも大幅なプラスとなる見込みであることから、2025 年 2 月期の期末の 1 株当たり配当予想については引き続き 5 円とし、2024 年 4 月 12 日の公表値からの変更はいたしません。

以 上